

# 新 生

平成二十五年六月 十日印刷  
平成二十五年六月二十日発行

新生第六十五巻 第二号

新 生

平成二十五年六月 十日印刷  
平成二十五年六月二十日発行

風鈴の  
音色に沁みる  
かき氷  
小富士

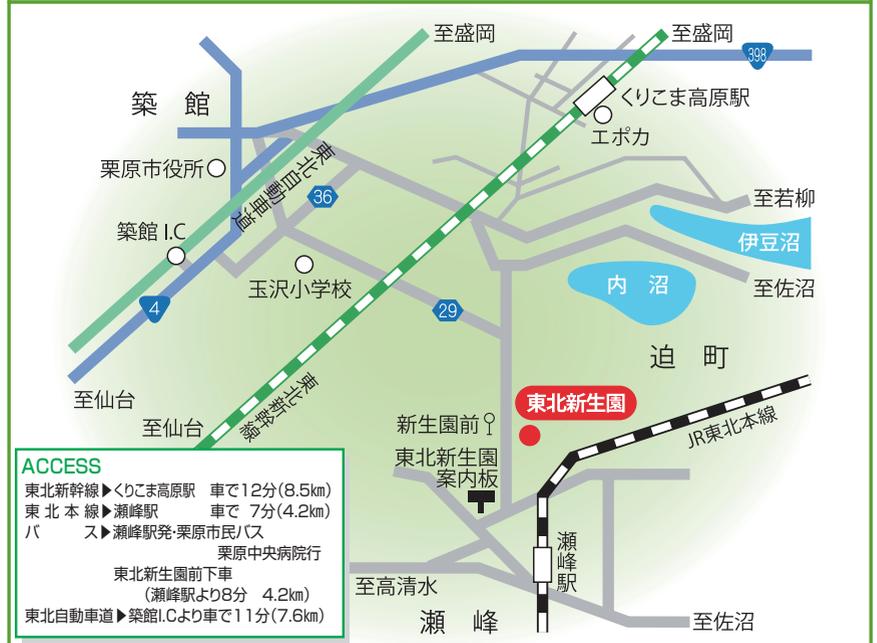


東北新生園入所者自治会

## 東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地		
土地面積	351,291㎡		
建物延面積	25,280㎡		
開園	昭和14年10月27日		
医療法承認病床	266床		
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科		
現在入所者数	男43名	女55名	計98名
職員定員数	153名 (平成25年4月1日現在)		
園長	医学博士	横田	隆

### 東北新生園交通案内図



第六十五巻 第二号

# 園内日誌

平成二十五年 一月～三月

## 《一月》

- 四日 お正月行事（抽選会）
- 七日 新年賀詞交歓会
- 八日 新年寮長連絡会
- 二十二日 楓会定期改選選挙（告示）
- 二十四日 楓会定期改選選挙（投票・開票）

## 《二月》

- 一日 楓会新役員顔合わせ
- 十四日 尚綱学院大施設見学

## 《三月》

- 二十九日 転勤・退職者離任式

# 【謝寄贈図書館】

平成二十五年一月～三月（敬称略）

始良野	青松	多磨	菊池	高野	愛生	点字愛生	甲田の裾
鹿兒島県	香川県	東京都	熊本県	群馬県	岡山県	岡山県	青森県
星塚	大島	多磨	菊池	栗生	邑久	長島	松丘
敬愛園	青松園	全生園	恵楓園	楽泉園	光明園	愛生園	保養園



池に金色の“亀”が出現!!  
亀は万年！入所者の長寿を祈願



壁画でPR!  
当園自慢の『桜・白鳥・栗駒山・花火』が分かりますか？

平成25年6月10日 印刷  
平成25年6月20日 発行

発行集刷 東北新生園楓会(自治会)  
編会文部 楓会文化部  
印刷 川内印刷株式会社

〒989-4601  
宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一  
東北新生園 電話 0228 (38) 2121(代)  
発行所 東北新生園入所者自治会 電話 0228 (38) 3600



新生・第六十五卷第二号……………目次

表紙：「涼を求めて」……………桃生 小富士

ごあいさつ……………副園長：藤原 耕……………(2)

転勤のご挨拶……………副総看護師長：大和田 文代……………(6)

ハテナ!?……………臨床検査技師長：浅黄 司……………(8)

やまん婆の幸せ……………栄養班長：中堤 信子……………(9)

脳腫瘍を病んで……………桃生 小富士……………(12)

随筆「さと息子」……………今野 きよし……………(16)

|| 新生文芸 ||

詩……………選者：佐々木 洋一……………(20)

短歌……………選者：長田 雅道……………(21)

俳句……………選者：山田 桃晃……………(23)

川柳……………選者：栗石 隆子……………(25)

就任のご挨拶……………理学療法士：北村 幸子……………(27)

就任のご挨拶……………義肢装具士：田中 智博……………(29)

随筆「モッコ」……………今野 きよし……………(32)

園内日誌・謝寄贈図書……………

## 「あいさつ」

副園長 藤原 耕

このたび東北新生園副園長を拝命いたしました。藤原 耕 と申します。ご挨拶代わりに自己紹介をしたいと思います。

私は昭和四十五年に京都市で生まれました。物心がつく前に滋賀県大津市に引っ越したので、京都のことはほとんど記憶にありません。

大津市に三井寺という有名なお寺があります。寺と言っても山一つがその敷地です。そ

のふもとの幼稚園に通いました。幼稚園の頃からは、少しは記憶が残っています。三井寺の山と琵琶湖が遊び場で、イモリや蛙、ザリガニや小魚とか昆虫とかを捕まえて遊んでいました。スズメバチの巣に石を投げて壊したときと、マムシに遭遇したときは、神様仏様、助けてと念じながら逃げましたが、そのとき以外は三井寺がお寺であることさえ意識していませんでした。それでも、お坊さんが話していた鬼子母神の物語だけは不思議と今でも覚えています。

小学校一年生でまた引っ越し、今度は奈良市に住むことになりました。小学校の名前がいかにも「奈良」という感じで、飛鳥小学校と言います。当時すでに創立一〇〇周年を超えていました。新薬師寺、白毫寺の近所や能登川が遊び場で、やはり、蛙やザリガニやフナや昆虫を捕まえて遊んでいました。能登川という川は、当時は水が汚くて川面に洗剤の泡みtainのが浮いているような川でしたが、生き物はたくさんいました。自転車で少し行けば東大寺や春日大社の広大な山林があり、飛火野の原っぱがあり、国宝や重要文化財、世界遺産に囲まれながら成長しました。今から思うと恵まれた環境ですが、当時は、お寺はみんな国宝で、世の中には鹿がうろつ

ことはありませんでした。学習塾のような学校だったので、学業成績のことばかり気にしなればならない青春でした。それでもサッカーなどに励むことも出来ました。

いていて当たり前だと思っていました。中学・高校は大和郡山市の学校に通いました。隣町には、やはり世界遺産の法隆寺があり、生徒手帳を見せれば無料で入れる特典付きでしたが、何の興味もなかったので訪れる

ことにはありませんでした。学習塾のような学校だったので、学業成績のことばかり気にしなればならない青春でした。それでもサッカーなどに励むことも出来ました。

医師を目指したきっかけは、おそらく看護師の母の影響でしょう。私が二歳の頃に肺炎だか気管支炎をこじらせて「死にそうになったのを、お医者さんに助けてもらったんだ」と何度も何度も聞かされました。そして、お医者さんになればいい、小児科のお医者さんがいいんじゃないかと、必ず付け加えられて、その話が終わるのでした。それが刷り込まれたためか、小学校の卒業文集には、将来の夢は「お医者さん」と書いてあります。単純な少年でした。父は学者で、原子核とか素粒子の研究をしていました。有名な湯川秀樹博士の弟子なんだそうです。その父からは、数学と物理が得意なのに何で医者になるんだ？と、何度も言われました。しかし、実際は物

理も数学も大して得意ではなかったの、単に父は医者嫌いだったの、だろうと思いません。父は七〇歳を過ぎた今でも衛星写真を解析するという、素粒子とは関係のなさそうな研究を続けています。ちなみに父は横手出身で、母は丸森出身です。結婚して京都大学に転勤してから後は、ずっと関西に住んでいます。

さて、私の夢？は叶って、平成八年に東北大学医学部を卒業し、医師になりました。

今年の三月までは仙台市の救急病院で外科医をしておりました。医学部を卒業してから十七年間、医療の仕事は手術と救急のことばかりでした。救急の仕事は社会貢献しているという自己満足が得られるし、手術も好きだったので、「この仕事が好きだ」と感じていました。が、三〇代後半になってから次々と肥満、尿路結石、糖尿病、変形性膝関節症な

どを思っ健康を損なうとともに、体力・気力も急速に衰えて、救急医療を担うことが重荷に感じるようになりました。一念発起して、自転車通勤を始め、玄米食、禁酒、登山、カロリー制限などあらゆる方法を試み、三年かかって体重を三〇kg近く減量しました。健康診断は全て正常となり、体力は回復したと感じました。しかし、気力と言いましようか、「救急医療を担って頑張るぞ」という気持ちに戻ることは遂にありませんでした。それで、次の仕事を探していたところ、新生園の職を得たのです。園長である横田先生が大学や医局の先輩に当たることなど、ご縁があったのだと思います。

何だ、気力の失せた医者が来たのか、とガツカリなさる方もいらっしゃるかも知れませんが、確かに気力は衰えてしまったかも知れませんが、無くなったわけではないと思っます。無理な仕事を続けて気力が完全になく

なってしまう前に、新しい仕事に就くことができたことを幸運と思っております。とにかく、自分にできることを一生懸命やろうと思っます。時には無理なことでも頑張ろうと思っます（大事なことなら、短期間なら、健康なら。条件が多すぎますか？）。

これまでと比べて、通勤時間と当直の回数は増えましたが、それを差し引いても仕事の拘束時間はかなり軽減しました。これによって気力を蓄え、新たな社会貢献を目指すことができそうです。新生園に勤めているからには、社会貢献とは入所者の皆様に貢献することだと思っます。「入所者の人権を尊重し、安心で安全な生活を提供します」という理念に基づき、少しでも貢献できるよう頑張ることが、自分の新たな目標となりました。よろしくお願っいたします。

◀ 楓会観桜会行事  
睦橋の提灯



(仮称)  
さくら公園内の噴水 ▶



## 転勤のご挨拶

副総看護師長 大和田 文代

この度、新生園の副総看護師長としてこちらに転勤してまいりました。どうぞ宜しくお願いいたします。

私は高校生の時まで岩手で過ごしていました。高校卒業と同時に国立埼玉病院附属看護学校に進学しました。看護師にでもなろうかという軽い気持ちで入学しましたが、学校の三年間で看護の素晴らしさや生命の尊さ等感動することが多く看護の原点はここで育てられたと思います。教育って本当に素晴らしいと思います。その思い出多き母校は数年前に閉校してしまい、寂しい限りです。両親は仕方なく埼玉に出してくれました。卒業したら岩手に帰ってくるんだぞと言われていたもの

していました。その多磨全生園には看護師長時代に三度、会議でお邪魔しました。見学もさせていたいただき資料館でハンセン病患者さんの迫害の歴史に心を痛めて見学したのを今でも覚えています。

ともかく袖ふれあうも多生の縁と言いますように縁があるのだなと思えてなりません。

私の自己紹介をさせていただきます。生まれは岩手県です。東日本大震災では陸前高田や釜石の隣町なので仮設住宅が建ちました。そんな山間の部落で育ちましたので野山をかけ、木登りをして隠れ家を作ったり探検隊を組んで獣道をどんどん進んで叱られたり、お転婆な子供時代を過ごしました。今の萌えるような若葉の時はウキウキします。自然大好き人間です。右も左も山で山から日が出た山に沈む太陽とはそういうもので三丁目の夕日のように真っ赤な大きな夕日が建物に沈んで行くなんて風景は関東に何年いてもなんか違うなと思っていました。この新生園は夕日が

のなんやかんやで埼玉に居着いてしまいました。もっと早くに帰って親孝行をすれば良かったなという後悔が少しあります。しかし、素晴らしい出会いはたくさんありましたのですべて含めて今の自分があると思います。看護学校で研修旅行がありました。初夏に行った気がしますが沖縄旅行でした。研修先の沖縄のハンセン病の療養所に行き入所者さんと挨拶を交わしたのを覚えています。色々話もしました。そして、沖縄の青い蒼い海に釣り船が浮かんでいてまるで絵に描いた様な風景でした。そんな一コマを思い出します。ですから、縁があつて今年この東北新生園に来させていただいたという思いです。また、とても尊敬していた先輩看護師でもう退官してしまいました。が、看護のことを話す先輩と一緒にいると看護の体験が宝物のようになってゆき、一日一日が使命ある日々と思えました。その方は多磨全生園で若い頃働いていて、入所者さんに看護を教えていただいたとよく話

とてもきれいです。また、先日ゲートボールの強化練習中に飛行機雲が何本も空に一直線に描かれていてふるさとの風景とダブリました。野山を駆けることはしなくなりましたが、私の趣味は畑作業です。畑でタマネギやジャガイモ、ニンニクやネギと手間のかからない程度の野菜を作ることが楽しみです。いんげんやキュウリも作ります。手をかければかけた分成長し新鮮な野菜が食卓に上るなんてうれしい限りです。岩手に戻ってきて四年目ですがおいしい食べ物と比例して体重が増えていきます。とりとめのない自己紹介になりましたが、飽き性の自分が看護師だけは何十年と続けてこられたのは本当に素晴らしい出会いがあったからです。これからもいろんな出会いを楽しみながら一生懸命生きてゆこうと思っております。

## ハテナ!?

臨床検査技師長 浅黄 司

平成二十五年四月一日付で独立行政法人弘前病院から東北新生園臨床検査技師長として着任致しました浅黄（あさぎ）と申します。どうぞよろしくお願いを致します。

出生地は、山形県ですが国立病院採用は関信地区です。東北には、平成元年「東京の物価高に食い詰め」希望転勤で宮城病院に赴任となりました。後に仙台病院（現仙台医療センター）、再度の宮城病院、福島病院、弘前病院を経て現在に至っております。

東北への赴任当初は、従来業務であった病理・細胞診検査の技術を生かして「尿沈渣による癌細胞検出法」の開発に取り組みまし

た。一方、赴任先の宮城病院が結核療養所であったことから、抗酸菌（結核菌等）培養法に「シユウ酸処理後中和集菌法」を導入して、検出感度増強と鶏卵培地溶解による判定不能頻度減少に取り組みました。更には東北の国立病院・療養所で初めてのMRSAによる院内感染対策委員会発足に取り組み、同時に一夜培養でMRSAの鑑別が可能な培地を開発しました。今では、その発展型の培地が全国で感染対策に使われています。

その後、仙台病院（現仙台医療センター）に異動となり、臨床細菌（原虫含む）検査と院内感染対策、また宮城県内の多剤耐性緑膿菌（MDRP）分離実態調査等の地域医療施設の感染対策連携に取り組みました。同時にHIV感染患者の薬剤耐性遺伝子増幅法を改良し検査精度の向上による臨床貢献に努めました。

これらの経験は、凶らずとも寄生体の病原

性や薬剤耐性機構、また宿主の免疫系・サイトカイン等についての認識を新たにし、HIV virusの多様性を知ることに繋がりました。

また、福島病院では、電子カルテの導入に関わり、従来から運用している部門システムの導入時の運用管理と項目マスター設定の重要性を知らされながらも、如何にか電子カルテとの連携をして運用する事が出来ました。

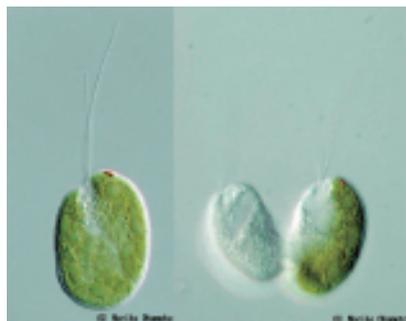
前施設の弘前病院では、また細菌検査を担当するうちに、CA-MRSA (Community acquired MRSA) GOS-MRSA (オキサリリン感受性MRSA) による「新生児の皮下膿瘍と敗血症」、胆管癌のVRE(Van C型) 敗血症、VISA (Van BISA: 解析途中で新生園へ移動)、胆嚢炎と敗血症のLeclercia adecarboxylata、膿胸からActinomyces spp.、呼吸器感染症のNocardia spp.(国立国際医療研究センター研究所で16sRNA/DNA解析中)、産婦人科材料からのCandida

dubliniensis やSaccharomyces cerevisiae 分離等、枚挙に暇のない多種多様な寄生体と薬剤耐性菌を経験しました。これは恐らく地方の多様性が現れたものと思いました。

これまで多くの感染症や寄生体（細菌、抗酸菌、放線菌、真菌、ウイルス等）の検査に携わって参りましたが、「らい菌」の経験は全くありません。俄か勉強宜しくテキストやインターネット等で情報収集に努力しております。

さて、そんな時に筑波大学の井上薫教授が、米科学誌「サイエンス」に、「ハテナ (Hatena arenicolagenetsp.nov)」という微細藻類の発見を報告していました。

ハテナは、鞭毛運動で葉緑体を取り込むのですが、細胞分裂する際には片方の細胞に葉緑体を持たないというのです。



(<http://www.biol.tsukuba.ac.jp/tjb/Vol5No3/TJB200603SE1.html>)

ご興味のあるかたはご覧ください。  
兎角、感染症を含む生物界には不思議なところが沢山あります。解っているつもりでいても、何にも解っていないのかもしれない。  
又、知り得た時には、すでに変化しているのかもしれない。

小生は、向き合った仕事を解る範囲内で謙虚に処理しつつ、新たな知識と技術を吸収しながら生業を求めて行きたいと思っております。

## やまん婆の幸せ

栄養班長 中堤 信子

みなさま。はじめまして、四月一日より栄養班に勤務しています、栄養士の中堤信子と申します。

東北新生園に来て園内の広さと手入れされた庭の美しさに驚きました。紅白の梅の木はどんな花を見せてくれるのだろうと楽しみにしていました、見事に咲き誇り思わずカメラのシャッターを切りました。あつという間に一ヶ月が過ぎましたが、仕事はまだまだ慣れない事が多くあり、メールセンターや治療棟で入所者さんとお話する機会を持つことが出来ていないのが現状です。私は二十年近く西多賀病院に勤務していましたが、その

後単身赴任生活が始まってからは新しい出会いや出来事が沢山ありました。友人に連れられて行ったのがきっかけで、ここ数年登山をするようになりました。元々運動は苦手な方で山登りなんて小学校の遠足以来したこともする気も無かったのですが、回数を重ねるごとに楽しさは増してきました。すぐに登れそうな低い山でも、一步一步登る時はすごくつらくて息が上がってきます。でも頂上に着いた時、「やったあ〜」と言う達成感が私をまた登りたい気持ちにさせてくれます。最近山ガールが流行のようですが、私は差詰め「やまん婆」と言う所でしょうか。

可憐な高山植物と雄大な景色、草木の匂いや風の音も五感の全てで感じ取り癒やされる様な気がします。山の上で食べるおにぎりは最高です。梅干と海苔だけなのに何故かすごく美味しく感じられます。食事を美味しく、楽しんで食べられるのは本当に幸せなことだ

と思います。年代によって私達は食べたい物や食べられる物が変わってきますし、味覚や食べられる量も違いますが「食事は健康の源です」入所者のみなさんが元気になる食事をお出し出来るように努力して参りますので、よろしくお願いいたします。



## 脳腫瘍を病んで

桃生 小富士

脳腫瘍を見つけてもらって、二十三日間の私の苦悩が始まった。手術をするのか？しないのか？の戦いである。

園長先生に「腫瘍が大きいので、手術したほうがいいでしょう。」と言われたが、私は「手術はしません！」と断り、弟にもそう言った。その頃は、手足も特に違和感もなく動いていたからである。

しかし、そうこうしているうちに、手足が自分のものではないように感じ始めた。友達が「手術をすればきつと治るから、是非！長生きするためにも…。」泣きながら懇願された。それで、悪くなっていくのが感じられたので、「手術はしない。」と言っていた私の

心が動いた。さつそく、弟と相談をし、園長先生に手術をすることを話した。

私の話を聞いた園長先生は、仙台医療センターの脳外科の先生に手術をする旨を話してくれました。医療センターから「本人が一度来るように。」と話され、私は一月二十八日に仙台医療センターを訪ねた。そこで、脳外科の園田先生と会い手術について詳しい説明を受けた。私としては、手術の成功率が八〇%だったらやろう、と心に決めていたが、先生の話聞いているうちに手術の成功率の%は語らなかつたが、私の胸の中で、手術をやってもいいという思いが湧き上がってきた。先生は「清水さんの年齢になると、一ヶ月位は入院しなければならぬ。」と話していました。そこで、私はすっかりと覚悟を決め「なるべく早くやって欲しい」と願った。先生の方からは「部屋の空き具合や先生の都合もあるのでいつになるのか…。」とはつきりとは答えられませんでした。

そうこうしているうちに、当センターの阿部師長さんより「入院が二月十二日、手術が二月十五日に決まった。」と連絡を受けた。

身の回りの物を揃えて、仙台医療センターに日程通り入院した。手術の朝八時三十分頃、佐賀師長さんが見えなくなった。私は師長さんとの面識がなかったので「新生園病棟の師長です。」と挨拶されました。

手術は予定時間の九時になり手術室に向かった。部屋を出た時はハッキリしていたが、どこで麻酔をされたのか？その後のことは意識が無く、手術室に入ったこともわからなかった。手術が終わって南部看護師さんに声を掛けられたそうだが、わたしはとんと覚えがなかった。「電気毛布を掛けてくれ。」と言ったそうです。手術は六時間もかかったそうで、私の元気な声を聞いて南部看護師さんは安心したそうです。それから、仙台医療センターの看護師さんに「今日は何日ですか？」と声を掛けられた。「十六日。」と私は答えた。す

ると「まだ、十五日の午後七時五十分頃です。」と言われました。私は「一日狂っているんだ」と思った。

翌朝八時頃、柴原先生が「どうですか？」と尋ねられ、私は「八〇%喋れるようになりました。」と言った。先生は頷いていました。それから毎日、園田先生と柴原先生と一緒に訪ねて来てくれました。私は、頭がガンガン病むようになり、「本当の戦いはこれからだ！」と思いました。薬を飲んで徐々に四日目辺りからは、とぎれとぎれに頭の痛みが落ち着いて来ました。

岩手県の一関から来ている看護師の高泉夏美さんが私に「清水さんの趣味は何ですか？」と尋ねてきました。私は「文芸をやっています。河北新報や川柳宮城野社、NHKに川柳を投句しております。」と答えると、「それじゃー、リハビリにもなりますから川柳を作ってみせて下さい。」と言われ、「そうかりハビリになるのならない句を作ってみよう！」と思った。

『看護師の笑顔に今日も生かされる』

「看護師さんが、笑顔と優しさを持って接してくれているので、今日も明日も生かされるのです。」と話した。上手い・いい句だと喜んでくれて、早速、大きく書いて頂き貼り出してくれました。

福島県の相馬から来ている看護師さんに「名前の頭文字を使って詩を書きますから。」と言ったら早速、土生睦美と書いてくれました。色々考えたがなかなか上手くいきませんでした。そのうちにこのように出来ました。

「は」…浜の娘に

「ぶ」…ぶつかる波は

「む」…睦み合っている

「つ」…土筆の子

「み」…みんな笑顔の春の風

土生さんが丁度来てくれましたので、書いて頂き貼ってくれました。また、一関から来ている高泉夏美さんの夏美で作りました。

「な」…泣いちゃいけない、泣くのはおよし

「つ」…強く生きよう今宵の夜を

「み」…身を焦がすまで笑顔で踊ろう

その間にも川柳を十句位作りました。看護師の方がくる度に「句が増えましたね。」と楽しそうに読んでくれました。「仙台育ちの清水です、ヨロシクね。」と挨拶され、名字が同じなので何となく親近感を覚えました。その清水智美看護師さんで、次のように詠ってみました。

「し」…静かに霧がふるように

「み」…水は大地の宝物

「ず」…ずっと星屑夢抱いて

「と」…共に生きようと励まされ

「も」…もつと生きようと生命の

「み」…見事に咲かずシミズ花

何となく自分でも満足した詩が出来ました。看護師さんのお話も沢山することが出来、みんな優しく若い看護師さんのエネルギーを頂き、回復も早くなったような気がしました。

いよいよ、二月二十八日退院と決まり、看護師さんと別れるのが何となく淋しくなる思いでした。そんな時、三人の看護師さんが揃って来てくれました。貼り出した詩や川柳を写真に撮り、看護師さんが替わる替わる私を囲んでシャッターを切って、キヤツ！

キヤツ！とはしゃいでいました。流石に若い看護師さんだなぁー”と思いました。その内に一人、高橋綾看護師さんが「私も詩を作って下さい。」と願われましたが、「今晩眠らないで作れませんので、残念だが…」と言ったら、「私も残念だわ。」と淋しそうでした。何時も話し相手になってくれた綾ちゃんだったのに…” そう思っていたら詩が湧いてきました。

「た」…たまに見る夢

「か」…かっこいい

「は」…橋を二人で手をつなぎ

「し」…新婚さんの気分です

「あ」…あゝ人生の幸せを

「や」…優しく包むあなたです

明朝、見送りの出来ない看護師さんたちと握手を交わし、川柳というすばらしいコミュニケーションションが結ばれました事を、今更のように感じました。

どの看護師さんも優しく素晴らしく、療養中は楽しさだけが頭の中に未だに残っています。皆さんの顔が浮かんできます。新生園にも遊びに来て下さい。見送りの時は、沢山の看護師さん、手術をしてくれた園田先生、柴原先生も顔を出して握手してくれました。本当にありがとうございます。スタッフの皆様にお礼を申し上げます。

平成二十五年三月十五日

追伸、新生誌が届く頃は六月の末頃です。

私もリハビリに励んで居ます。

A 息子正勝 B 母

A 母ちゃんさと息子ってどういうの云うのや？

B 誰に聞いた？

A 寛治さんの母ちゃんに聞いた。

B 何ていつていた。

A あんだはさと息子だなって云っていた。

B 寛治さんの母ちゃん、そんなこと云ったのか。

A うん、云っていた。ほだから、母ちゃんに詳しく聞きたいと思った。

B さと息子ってうんとめんこがることを云

うんだ。

A おら、さと息子でないね。

B どっちかな。

A おれより母ちゃん甘いもの好きだから、さと母ちゃんだね。

B さと息子ってな大事に大事にして「さと」付けてなめるようにして甘く育てるのを云うんだ。

A はア、そういうの云うのか。

B ほしたら、そうして他の人と違うかわいがりかたをするんだ。

A 母ちゃん、今年も新生園で花火大会あるのか。

B あるかもしれない。まだはつきりした事聞いていない。

A 決まったら、早く教えてね。

B 花火大会のこと聞いて、誰かに聞かれたのか。

A うーんうーん。

B うーんうーんで分んねべ。

A うーん、ほだね。

B 何そんなにもつたいぶって。

A あのな。

B あのなで分んねべ。早く語らえん。

A 加代ちゃんに聞かれたんだ。

B ああそうか。加代ちゃんも家の人たちに聞かせるのか。

A うん、そう云っていた。

B そうか、それええごった。早く聞いて教えてっからな。

A 花火大会、花火は夜だし、昼間は輪投げあつたけね。

B そうだな、輪投げ上手く入ったけか？あまりうまくなかった。

A ほだっけか、そうそう正勝お前あんまり上手でなかったな。

B 母ちゃんほうまかったな。どこで覚えたてきたの？

A そこは母ちゃんだもの上手なんだ。輪投げのところ、ゆっくり歩いて行った

ところに金魚掬いだっけか。

B 金魚うまく掬ったけか。

A 金魚あみに入っただけども、紙やぶれて、逃げられてしまっただめだった。

B 金魚掬いはだめだったけれども、係の人四、五匹ビニール袋に入れてくれたな。

A そうだそうだ、その時の金魚こんなに大きくなったのか。

B あの時の金魚、こんなに大きくなったんだ。

A 金魚掬い終わって、わたあめ貰って、母ちゃんと二人で福祉会館のところで食ったね。

B そうだそうだ、正勝お前わたあめ鼻のほっぺさくっつけて平気で居たけな。

A あの時、母ちゃん家さ来てから、くすくす笑っていたけな。何わらつてたのかと不思議に思った。

B 母ちゃん、そんなに笑っていたのか。ほんだいつまでも笑っていた。

A B それ良かったな。  
 B 母ちゃんあの時見たこともない、知らない人いっぱい居たっけな。  
 B 新生園は栗原市と登米市の境だから、知らない人も大勢集まるんだ。  
 A おらも家は登米市だね。  
 B ほだ登米市、正勝この家もだど。  
 A 母ちゃん、おら中学終わったら佐沼高校さ入りたい。それから東北福祉大学に進みたい。  
 B 何そんなに急に高校だの大学だのって。  
 A 大学に行つて福祉の勉強をして、それから野球も上手になりたい。  
 B 正勝この間、野球大会優勝したとき応援に行けなくて悪かった。  
 A 母ちゃんだつて仕事忙しいもの。仕方ないね。でも、少し寂しかった。  
 B 今度必ず応援に行くから、優勝したら赤飯炊いてお祝いしてやつからな、さと息子。

A さと息子、やめてよ。恥ずかしいから。  
 B どうせみんな知ってるんだべ。  
 A ほだから嫌なんだ。  
 B 花火大会のときのこと皆んな見ていたから、分っているもの。  
 A さっきの話、福祉大学に行つて福祉の勉強をして、野球も上手くなつて。  
 B それからどうするの？  
 A それから野球チームを作つて、監督になる。  
 B 人数集まるかな？  
 A 野球チームを作つて監督になりたい。  
 B そしてそれから？  
 A 福祉関係の仕事を見つけて母ちゃんを安心させる。  
 B それは大した良い考えだこと。  
 A 仕事もしつかりやる。野球もやる。  
 B それは良い事だな。  
 A 二十七才位になったら嫁ご貰つて、母ちゃんと仲良く暮らしたい。一家団欒の

B 毎日を送りたい。  
 B ほだつて、誰か来てくれる人あてあるの？  
 A 加代ちゃんなら来てくれると思う。  
 B なしてそいつ分るのや？  
 A 加代ちゃん指けがした時に母ちゃんに傷の手当てしてもらつた時のことちゃんと覚えていたっけ。  
 B なんて云つてたの。それだけでは分らないべ。  
 A まだ小学生の時、大きくなつたら正勝さんのお嫁さんになるつて云つていたもの。  
 B 小学生の時にそんなこと云つたのか。  
 A うん云つていた。  
 B それだけではだめだべ。  
 A この間大きくなつたら野球チーム作れるとええねつて云つていた。  
 B ほんで子供をたくさん生んで野球チーム作りたいと思つたのかな。

A 野球チームを作つて部落のみんなと仲良くいつまでも暮らしたいと思つている。  
 B 随分大きい望みだな。  
 A その時母ちゃんは医療チームとおやつ作り頼みます。  
 B それではいつまでも元気でいるからね。さと息子チームの監督さん。



詩

佐々木 洋一選

◇ 入 選 ◇

《空》

今野 きよし

雲の無い  
晴れた空  
夜明けの星の  
二つ三つ  
東の空に  
日差しを受けて

朝焼け雲の  
棚引いて  
北に南に  
どこまで続く  
青い空  
宇宙の中の  
地球に住んで  
あれやこれやと  
考える

悩みながら  
抜け出して  
希望の春へ  
進みたい  
暫くの  
辛抱をする  
覚悟が欲しい  
この吾れに

【選評】

《空》

今野 きよし

日常の人間同士の軋轢やささいな悩み、それは宇宙や地球にとってどれほどのものだろうか。しかし、そうしたささいな悩みを抱え、たえるのが人間の人間たるゆえんでもある。空の青さが冴え渡る作品である。

短歌

長田 雅道選

◇ 入 選 ◇

佐藤 つや子

意のままにならぬ食事を重ねつついつしか気長になりていたりき

【選評】

食事をするにも指に力がなくフォークを落とすという。大変な日常である。しかし気がついてみると、気長になったという。それはいいことだと思う作者である。



今野 きよし  
ひたひたと廊下を歩む靴の音親しく聞きぬ補聴器かけて

【選 評】 廊下を歩く靴の音にも親しきを感じるといふ。鋭い感受性だ。補聴器かけてと表現して特色ある一首になった。

◇ 佳 作 ◇

佐藤 つや子  
腰萎えて届かずなりし棚の上かかる事にも人の手を待つ  
数十年看取りもらいし介護員さん想い出いっぱい残し去りゆく  
ゆっくりと露の臺味噌食みながらただそのみに集中している  
四月六日卒寿迎えて思いおり親しき友

らおおかた逝きぬ  
療園に卒寿迎えて思いおり発病せしは尋常五年生  
石板に文字書き習い一年生思えば遙けした懐かし  
フオーク持つ指ちからなく取り落とす食事する際意のままならず

今野 きよし

治療棟の前に植えたる梅の花二つ三つほころびはじむ  
寮の跡東屋二棟建てられて池も作りて明るくなりぬ  
定年の職員送る離園式迎えとちがい別れはつらい  
離園式終えたる後のそれぞれに記念写真を映しておりぬ  
介護員世話してくれたパンジーの花を咲かせて礼を言うごと

四月には勤務の変わる介護員別れを惜しみパンジー咲きぬ

脇に生い生いしく春の足音を聞くような思いの露の臺に出会った喜び。



◇ 入 選 ◇

今野 きよし  
道標脇にころがり露の臺

【選 評】 道標にも色々あり、一里塚、道祖神等脇にころがりとは何の脇だろう。作者の眼は心はするどい。ころがっている道標その

道標にも色々あり、一里塚、道祖神等脇にころがりとは何の脇だろう。作者の眼は心はするどい。ころがっている道標その

園 永 泊  
我が儘な風に若竹反り返り

【選 評】 我が儘なのは人それぞれ。風の強さに反り返りながらも若竹は一節一節ずつ、どんどん生長してゆく。竹になりきって生命の尊さを喜ぶ我が儘の風。

千代田 秀 夫  
どんぶくの襟を合わせて風くぐる

【選 評】 どんぶくとは懐かしい言葉。着ぶくれは衣類を重ね着込むことで赤ん坊をおんぶする胴着等、綿入どんぶくを着ての子守

唄が聞こえてくる。襟を正して  
風をくぐる緊張感。

東京に一年ぶりの桜餅  
ようやくに仰げば尊く卒業す

◇ 佳 作 ◇

今 野 きよし

犬ふぐり休耕田を囲みけり  
避難広場地均し半ば犬ふぐり  
ゆるやかに登る坂道雪柳  
指先に喜びあふれ蓬餅

斎 藤 照 雄

目に青葉ゆうべの窓にもたれけり  
梅におう今日はうれしい退院日  
梅咲いて結婚式の二人かな

千代田 秀 夫

大寒といわれるほどの寒さかな

園 永 洵

雪だるま顔を歪めるあたたかさ  
杖立てて雪の深さを確かめり  
ドレミファの譜となり細る軒氷柱



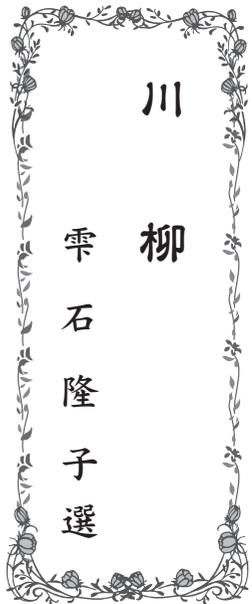
《地位》

今 野 きよし

放縦の前に見えない壁がある

【選 評】

気のまま我がままに生きる、  
ということとは節操を持たない  
ということである。この怖いもの  
知らずの振る舞いは、挫折を知  
ることになるのだが、社会に生  
きる者としてのルール無視は、  
いずれ大きいツケが回ってくる  
だろう。



◇ 入 選 ◇

今 井 青 風

《人位》  
人生にリハーサルなど無いのです

【選 評】

お芝居などは本番前に練習が  
あるが、人生はそうはいかない。  
誰もがぶつつけ本番であり、人  
生にはやり直しがきかない。来  
し方を振り返っての作者の感慨  
であろうか。

《天位》

桃 生 小富士

救急車悲痛な貌で今日も行く

【選 評】

救急車のサイレンは、いつ聞い  
ても身震いをする。緊急な命の  
瀬戸際を想像してのことだが、  
車体を悲痛な貌、と見る作者の

鋭さに感服である。病院に運ばれる方への感情移入は、作者の優しさである。

◇ 佳 作 ◇

今野 きよし  
篤農をしかと見ている落の臺  
心中を見透かしている猫柳

齋藤 照雄  
春うらら枯木に花が咲きそうだ  
春うらら口びる軽くすべりそう  
春うらら故郷へ続く山見えず

今井 青風  
我が家にも小さな春だ福寿草  
挑発を続ける国の民思う

桜山 南 仙  
雪降って眉ひきなおす雪だるま  
ドーナツの穴を子供の夢くぐる  
貧しさに振り込み電話などこない

千代田 秀夫  
豆拾うこの一粒に願かける  
眼底にじっと真実見据えてる

桃生 小富士  
悲しみをようやく越えて合掌す  
八十路坂ついに病に追いつかれ  
春なのにボクはベットの眠り草

就任のご挨拶

理学療法士 北村 幸子

皆さん、初めまして。今年の四月一日より、リハビリセンターにて理学療法士として勤務させて頂いたことになりました。北村幸子と申します。今年の三月に仙台の専門学校を卒業したばかりで右も左も分からない私ですが、こちらで先輩や入所している皆様に手とり足とり教えていただき、毎日感謝の気持ち一杯です。毎日の経験から様々な事を学び、これから勉強を重ねていきたいと思えます。

私がリハビリ関係の仕事を目指したのは、私の両親が仙台医療センターに入院したことがあり、その時に母の勤めで仙台医療センターのリハビリ室を見学させていただいたのが、きっかけでした。その頃はリハビリとは

どんなものかよく知らず、そのまま専門学校へ入学してしまっただけですが、入学後に体験した実習を通し、やりがいのある仕事だと実感しました。実習は全部で四回ほどあり、宮城県内の他に、山形、秋田などの病院や介護老人保健施設に約二ヶ月ずつ滞在し、勉強させて頂きました。その各施設にて、一生懸命リハビリに励む患者さんや熱心に治療技術を教えてくださる先生方と出会い、私もこの世界に飛びこんでみたいな、と憧れるようになりました。私は出来が悪く、期末テストや実習の成績はあまり良くありませんでした。そのため、卒業間際に実施される国家試験の勉強も大変でした。クラスの友人らに助けて貰いながら何とか無事合格できたので、合格がわかった時の嬉しさはひとしおでした。また東北新生園への就職が決定した時も、自分が就職試験に合格できるとは思っていませんでした。嬉しく、興奮して眠れませんでした。

私は現在、大崎市松山に住んでいます。田んぼと低い山しかない田舎ですが、仙台など市街地から帰ると自然の多さにいつもほっとします。新生園までは毎日車で五十分程かけて通勤しています。十年以上ペーパードライバーだったので、自動車通勤が決まり、三月に慌てて運転の練習を始めました。毎日助手席に父を乗せて松山から新生園までやって来て、園内を見て帰る練習を繰り返していたのですが、新生園へやって来る度に敷地の広さに驚き、父とすごい所に就職が決まったね、と話していました。

私は、父、母、姉と私の四人家族です。父は現在定年退職し、家庭菜園を作っています。なかなか本格的で、四季折々の旬の野菜が食卓に並ぶのは私も楽しみです。大好きなナス味噌炒めをお腹一杯食べた時、掘りたての新じゃがをふかしてバターで食べる贅沢は、父が野菜を育てているからこそできるものだと思います。母も退職し畑の草むしりなど父の

してみようと思っと思っていますので、ぜひ覗いてみて下さい。また普段から将棋やクイズなども行っていますので、リハビリ目的だけでなく、気軽に立ち寄ってお話をしたいと思っています。

まだまだ未熟な私ですが、東北新生園で学べることは多いと思うので、たくさんの方の経験を重ねていきたいと思っています。

皆様に教えていただくことは多いと思いますが、精一杯頑張りたいと思いますので、これからどうぞ、よろしくお願い致します。

手伝いをしてはいますが、最近の趣味は陶芸のようです。カルチャースクールで何気なく始めたのですが、この間ろくろを購入し自宅でも陶芸をするようになりました。茶碗を片付ける場所がもう無いので困っているところです。姉は学校の教員をしています。スポーツの楽しい学校なのですが、姉が顧問をしている部活は全く賞を獲れず、悩みのタネとなっています。また、猫二匹とうさぎを飼っています。犬も大好きですが現在は飼っていません。動物好きな一家です。

現在、新生園で働くようになり、先輩の先生方や入所している皆様に、新生園の歴史や治療の方法等たくさんの方の事を教えていただいています。まだ知識も経験も無く失敗ばかりの私ですが、日々周囲の皆さんに育てられていると実感しています。

リハビリセンターも新しくなり、より機能的になるよう努力していると考えているところです。曜日を決めて皆で体操やゲームを

## 就任のご挨拶

義肢装具士 田中 智博

あつという間の風薫る五月、期待と不安に胸ふくらませ参りました四月より、早いもので一か月が経とうとしております。

皆様に、何を伝えたらいいのか悩みましたが、自分が義肢装具士としてこちらへお世話になるまでをお話させて頂きます。

元々、病院内の医療事務として七年間勤務しておりました。

毎日を、パソコン相手に過ごす日々。時々聞ける患者様の悩みや質問。

先生方へ伝えてあげる事は出来ても直接何もしてあげられないもどかしさ。

こんなもどかしさが胸をつかえだした頃、義肢装具士という仕事を知りました。

伝える事しか出来なかつたもどかしさから、患者様に装具や義肢によって直接助けになるものが製作出来る喜びと、子供の頃から物づくりが好きだった事もあり、天職に出会えたように思えました。

翌年には学校へ通い、三年後念願の義肢装具士となる事が出来ました。

すぐにでも病院の職員として働きたかったのですが、修業のつもりで民間の会社へ勤め少しでも多くの経験を積み腕を磨こうと考えました。

当初私のいた会社では、採型・製作・納品と一連の流れの中仕事が出来る今では数少ない会社でしたが、採型と納品をする者と製作をする者として分業制となっていました。

もちろん患者様を診てきた者が製作する方が言葉では伝えられない微調整による適合の良さを肌で感じてきましたので、私は採型・製作・納品と一連の流れを持つべきだと考えていますが、この当たり前の事が出来ず分業

化されている事が一般的です。

なぜなら、民間では営利も考慮しなくてはならない為、一連の流れで製作した方が適合が良い事はわかっていても、仕事の効率とのバランスを考え、分業化せざるを得ないとも言えます。

私自身もつとスキルを伸ばして行きたい。しかし、分業化が進む事で、職人としての感が伸ばしにくくなっています。

一連の流れで出来上がった装具と、分業化によって出来上がった装具。見比べても違いが無いに等しいと思います。

しかし、ほんの少しの差が装着感や歩様・褥瘡などの有無に影響を与え、日常生活動作の範囲を広げる事にも狭める事にもつながると思います。

又、一定時間内しか患者様を診る事が出来なかつた為、「この方にはこの装具が良いだろうな」など、数多くの装具選択から良い面、悪い面を提示した上で先生やりハビリの先生

方を選択してもらう力は養われましたが、患者様とのコミュニケーションは必要最低限のものでした。

もし、皆さんも自分の装具を製作してもらうなら、よくコミュニケーションをとってから製作してもらいたいと思うのではないのでしょうか、もちろん骨折など、急を要する場面では仕方ないのですが、いきなり会ってすぐに採型なんて嫌だなと私は思います。

私が目指す義肢装具士は、取り立てて感謝される事ではなく、空気のように陰で支え、あの人に診てもらえば大丈夫という安心感や信頼される存在になる事です。

目指す義肢装具士を実現させるには、営利を目的にするのではなく、コミュニケーションから生まれる人とのつながり、責任をもつてお渡し出来る装具づくり、そんな職場で働きたいと思い、新生園へ参りました。

まだ来たばかりで分からない事ばかりです。こちらでは常識な事が出来ず、常識はず

れた事をして皆様にご迷惑をおかけしてしまう事も多々あると思いますが、荒井先生に教えて頂きながら、入所者の方々に安心して装具を頼んで頂けるよう日々努力して参りますので宜しくお願い致します。



A 息子 B 母

A 母ちゃん煽てつとモッコに乗るなつてどういうこと？

B 誰に聞いたその話。

A 隣の兄ちゃんに聞いた。

B その時に兄ちゃんに聞けば良かったのに。

A そうだね、あの時すぐに聞けば良かった。

B ほうだべ、そういう時はすぐ聞くもんだ。

A おら母ちゃんに聞けばわかると思った。

B なんぼ母ちゃんだつて隣の兄ちゃんのことまでわからないもの。

A そうだよね、ああ遅れてしまった。

B ほうだべ、いつもひと汽車遅れているものな。

A モッコってどんな形してるの？

B モッコってな縄で編んで作ったもので背中に背負うものもあるし、担架のようなものもある。

A それではいろいろあるんだね。

B 多分その話、担架のようなものだと思う。

A どうしてその話わかるの？

B なんとなくわかる気がする。背負いモッコに乗る人居ないと思う。

A うん、母ちゃんは見なくともわかるんだね。やっぱり聞いて良かった。

B そうか良かったか。

A 良かった。やっぱり母ちゃんだね。

B 今日母ちゃんほめるのか。ほめたつて何も出ないと

A 乗るものでないつてどういうこと？

B 隣の兄ちゃんの話聞かないとわからないなあ。

A 隣の兄ちゃん今日は居ないつて云つていた。

B 後で聞くべその話。

A そうだね、隣の兄ちゃん帰るの待つことにするね。

B あのな、お平の洋一さん農学校卒業して百姓始めてなあ。

A 洋一さんがどうしたの？

B 洋一さんが百姓始めた年なんだ。

A それからどうしたの？

B 田も作り、畑も作り、一人で一生懸命働いてみんなにほめられて喜んで居たんだ。

A ほめられてそれがどうしたの？

B 秋になつて町の文化祭の野菜品評会に出すようにすすめられてな。

A 秋になつてどうなったの？

B この白菜、優勝間違いないと云われて出したけれども、優良可と賞があつて、洋一さんの白菜は可の下の方になつてがっかりして口もきかなかつた一ヶ月位。

A あの明るい洋一さんがそんなことあつたのか、わからないね。

B そうだべ、そうやっていろんな事経験して一人前になるんだべな。

A 母ちゃんは部落の役員もなにもなくてええね。

B 何そんなこと急に云い出してなにかわけあるのか？

A うん、同級生の斉藤君の母ちゃんPTAの役員で家に居ないんだつて、つまりないつて云つて居た。

B 母ちゃん何もなくて良かったな。

A それでも斉藤君、母ちゃんの自慢話してる。

B その時どう思う？

A 少しさびしい気もする、でも家に帰ったとき母ちゃん家に居ると安心する。

B そうだろう、母ちゃん家に居たほう良かったべモッコさ乗せられないから。

A おれ小さいとき母ちゃんにモッコさ乗せ

て貰ったことあったけね。  
B ほうだな、秋に白菜摘みさ行くときだったな、泣きながら後ついて来るもんだもの。  
A おれいくつときなの？  
B 三つか四つときだったな。  
A あるときモッコさ乗せられたの楽しかった。  
B そうかそれ良かったな忘れてないで居たのか。  
A うん忘れない、一生わすれない。  
B やや、これ困った、忘れないのでは。  
A 隣の兄ちゃんのことわかったら教えて。  
B あの話、隣の兄ちゃんが部落の青年団の役員になったときの話聞いたことある。  
A どういうことなの？  
B そのときみんなの評判良くなかったがっかりしていたことあった。  
A あの隣の兄ちゃんでもだめなことあるのか。

B 誰でも先に立つと難しいんだと、だからお前もほめられてもすぐその話に乗るんでないと。  
A はい、母ちゃんありがとう。  
B わかったか、良かったな頼むからな息子。  
A なんだか母ちゃんのモッコさ乗せられた気がする。  
B 母ちゃんのモッコつてとても気分ええんだと。  
A そうだね、母ちゃんのモッコだもの。